

2026年度(総合型選抜)AO選抜入学試験 /  
総合心理学部「総合評価方式」  
(課題論文型、UNITE Program®データサイエンス型)講評

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

【課題論文型】

学科・学域・専攻等	志願者数	1次合格者数	最終合格者数
総合心理学科	86	20	8

【UNITE Program®データサイエンス型】

学科・学域・専攻等	志願者数	1次合格者数	最終合格者数
総合心理学科	32	13	7

(2) 本入学試験の目的

本入学試験の目的は、以下の点について確認することです。

- 1) 心理学を学ぶ意欲と問題意識が極めて高く、自らの学びを社会へ還元する意思と実現性を表現できるか
- 2) 出願する入試型ごとに、以下を満たしているか
  - ① 課題論文型  
設定された課題に対する理解力と表現力に優れ、かつ独創的な発想力を持っているか
  - ② UNITE Program®データサイエンス型  
数学的素養を活用し、データサイエンス時代において総合心理学部における学びを高度に発展させようとする強い意志と将来の展望を持っているか

2. 試験内容

(1) 第1次選考

【入試型共通】第1次選考のエントリーシートでは、志望理由、これまで自分が継続して取り組んできたこと・誇れることについて記述を求めました。

小論文では、心理学に関連するテーマについての論述を求めました。テーマには、現時点での知識や関心に即し、入学後に学びたいと思う内容を自由に設定することとしました。

(2) 第2次選考

【課題論文型】第1次選考合格者に対して、90分の課題論文試験と約15分の個人面接試験を実施しました。課題論文では、4つのポイントについて問いました(順不同)。

- 1) 高等学校の学習を踏まえ、心理学に関する文章理解を問うもの、
- 2) 同理解に基づいて、考える力およびそれを表現する力を総合的に試すもの、
- 3) 研究データを示す図表を読みとりその内容を説明するもの、
- 4) 研究内容の重要事項をクリティカル(批判的)に論じるもの、です。

個人面接では、2人の面接担当教員が選考書類に基づき、志望動機や入学後の学習目標や取り組みたいこと、特色ある活動と学びの実績などを質問しました。

【UNITE Program®データサイエンス型】第1次選考合格者に対して、約10分の口頭試問試験と約15分の個人面接試験を実施しました。口頭試問試験では、2人の口頭試問委員が試問票に基づき、以下の3つのポイントについて問いました。

- 1) データサイエンスに資する、数学および情報に関する知識を問うもの、

2) 同知識に基づいて、データ理解・分析力を総合的に試すもの、

3) 心理学的観点からデータの説明と発展性を論じるもの、

個人面接では、2人の面接担当教員が選考書類に基づき、志望動機や入学後の学習目標や取り組みたいこと、特色ある活動と学びの実績などを質問しました。

### 3. 出題の意図

#### (1) 第1次選考

**【課題論文型】** エントリーシートでは、本学への志望動機や入学後に学びたい分野・テーマが明確になっているか、学習意欲・関心は高いか、卒業後の進路について明確なビジョンを有しているか、将来について真剣に向き合っているか、などを審査しました。

小論文では、論文としての構成、内容の論理性、説得性、独創性、また語句や漢字を正しく書いているかを審査しました。

**【UNITE Program®データサイエンス型】** エントリーシートでは、本学への志望動機や入学後に学びたい分野・テーマが明確になっているか、データサイエンスとしての心理学を志向しているか、卒業後の進路について明確なビジョンを有しているか、将来について真剣に向き合っているか、などを審査しました。

小論文では、論文としての構成、内容の論理性、説得性、独創性、また語句や漢字を正しく書いているかを審査しました。

#### (2) 第2次選考

##### 【課題論文型】

・**課題論文** 心理学に関わる文章を読み、文章を適切に理解できるか、科学的に考え書く力があるかを試すものでした。設問1と設問2は文章読解力とそれぞれの内容について自らの考えを論理的かつ説得的に論じる力があるかを試すものでした。設問3は図から適切に理解する力と説明する力があるかを試すものでした。設問4では、同図の読解から得た知識を展開する力を試すものであり、同知識を別の問題に応用して論理的に展開する力を評価するものでした。

・**面接** 志望動機や入学後の学習目標や取り組みたいことの確認を通して、心理学への適切な関心や知識について試すものでした。またこれまでの特色ある活動と学びの実績について問うことで、入学後に期待できる活躍の程度について評価するものでした。

##### 【UNITE Program®データサイエンス型】

・**口頭試問** UNITE Programにより学習した指定単元(数学I「データの分析(データの散らばり)」「データの分析(データの相関)」、数学A「場合の数と確率(事象と確率・確率の基本性質)」、数学II「多項式の微分法(微分法の応用)」「多項式の積分法(積分と面積)」)の知識を、心理学に関わる文章を読んで、その内容に応用する力があるかを試すものでした。設問1では、文章内の図から知識を基に文章内の図を読み、その内容を適切に理解でき、データサイエンスの知識に基づき説明できるかを問いました。設問2では、文章内の内容から指定単元に含まれるデータサイエンスの知識を導き出せるかを問いました。

・**面接** 志望動機や入学後の学習目標や取り組みたいことの確認を通して、データサイエンスとしての心理学への適切な関心や知識について試すものでした。またこれまでの特色ある活動と学びの実績について問うことで、入学後に期待できる活躍の程度について評価するものでした。

### 4. 評価のポイント

#### (1) 第1次選考

**【課題論文型】** エントリーシートでは、志望理由や学びたい分野が総合心理学部の教育目標や教育課程と合致するかどうかを評価しました。また、これまでの学業の達成度についても評価しました。小論文については、興味深いテーマを追求しているか、文章の構成がよく考えられているか、語句の使用は適切か、などを評価しました。また、エントリーシート・小論文ともに、総合心理学部での学びを個人的

なもので終わらせるのではなく、周囲の学生や社会へ還元する意思と実現性を表現できたものを評価しました。

とくに志望理由については、自身の個人的な悩みの解決を動機としたものより、社会問題の解決を動機とするものの評価が高くなりました。また、与えられた環境で学ぶという受け身の姿勢のものよりも、自分が新しい環境を作り出していくという能動的な姿勢のものとの評価が高くなりました。

**【UNITE Program®データサイエンス型】** エントリーシートでは、志望理由や学びたい分野が総合心理学部の教育目標や教育課程と合致するかどうかを評価しました。また、これまでの学業のうちデータサイエンスに関連する分野の達成度についても評価しました。小論文については、データサイエンスに資するテーマを追求しているか、文章の構成がよく考えられているか、語句の使用は適切か、などを評価しました。また、エントリーシート・小論文ともに、総合心理学部での学びを個人的なもので終わらせるのではなく、周囲の学生や社会へ還元する意思と実現性を表現できたものを評価しました。

とくに志望理由については、自身の個人的な悩みの解決を動機としたものより、社会問題の解決を動機とするものの評価が高くなりました。また、与えられた環境で学ぶという受け身の姿勢のものよりも、自分が新しい環境を作り出していくという能動的な姿勢のものとの評価が高くなりました。

## (2) 第2次選考

### 【課題論文型】

・**課題論文** 課題論文は、文章や図、データなどを読み込み、科学的に考え、書く力を評価しました。設問1では、図を適切に読み、その説明ができるかを評価しました。設問2では、問題の文脈に応じてどのように解釈し説明できるかを評価しました。設問3では、それらの解答を踏まえて、別の状況について展開的に考察できるかを評価しました。設問4と5では、同問題で指摘されている内容を別の社会的問題に応用して考える力、そして同問題についての解決策を論理的に展開できるかを評価しました。

・**面接** 個人面接では、志望動機や入学後の学習目標や取り組みたいことへの問いから、現代の心理学研究に対する理解度、また本学部での心理学の学びに適切であるかを評価しました。また特色ある活動と学びの実績などについての質問から、心理学の学びに対する主体性や積極性を評価しました。

### 【UNITE Program®データサイエンス型】

・**口頭試問** UNITE Programにより学習した指定単元（数学Ⅰ「データの分析（データの散らばり）」「データの分析（データの相関）」、数学A「場合の数と確率（事象と確率・確率の基本性質）」、数学Ⅱ「多項式の微分法（微分法の応用）」「多項式の積分法（積分と面積）」）の知識を、心理学に関わる文章を読んで、その内容に応用する力があるかを試すものでした。設問1では、本文中の数値と分析結果を基に適切に理解し、データサイエンスの知識に基づき分析結果を基に論理的に考察し発展的に展開できるかを評価しました。設問2では、本文中の内容を基にデータサイエンスに関する知識を適用し、表現できるかを評価しました。

・**面接** 個人面接では、志望動機や入学後の学習目標や取り組みたいことへの問いから、データサイエンスとしての心理学研究に対する理解度、また本学部での心理学の学びに適切であるかを評価しました。また特色ある活動と学びの実績などを質問から、心理学の学びに対する主体性や積極性を評価しました。

## 5. 解答状況

### (1) 第1次選考

**【課題論文型】** エントリーシートについては、多くの受験生が本学のアドミッション・ポリシーや総合心理学部のカリキュラムの特徴をよく理解して記載していました。

**【UNITE Program®データサイエンス型】** エントリーシートについては、多くの受験生が本学のアドミッション・ポリシーや総合心理学部のカリキュラムの特徴をよく理解して記載していました。また自ら取得したデータを基に心理学的問題を論じる人が高評価になりました。

## (2) 第2次選考

### 【課題論文型】

・**課題論文** 今年度の課題論文は、実際に行われた心理学的支援についての文章、およびその変化について示した図により構成されていました。文章に対する考え方や知識を問う問題については多くの方が解答できる傾向にあり、論理的な記述がなされているものが評価されました。一方で図の読み取りについては点数に差があり、適切に図を理解し分析的に記述できるかによって評価が分かれました。

・**面接** 面接では、志望動機や入学後の学習目標や取り組みたいことへの問いに対して、心理学研究の書籍や論文等を調べ、その内容に基づく本学部での学びや取り組みについて論じられていない人が一定いました。

### 【UNITE Program®データサイエンス型】

・**口頭試問** 今年度の口頭試問試験では、データサイエンスに関する数学的・情動的知識について問いましたが、現実場面における課題に対して、それらの知識をどのように適用し、情報を整理・解釈できるかという点で評価に差が見られました。また、基礎的な知識の理解にとどまらず、データを適切に解釈した上で課題解決へとつなげる思考過程や、発展的な議論を展開できているかどうか重視されました。

・**面接** 面接では、志望動機や入学後の学習目標や取り組みたいことへの問いに対して、データサイエンスとしての心理学研究に対する理解度、また本学部での心理学の学びに適切であるかが評価されました。

## 6. 次年度の受験生へのアドバイス

【課題論文型】 第1次選考のエントリーシートでは、個人的な経験をきっかけに関連する学問に関心をもった、という内容で終わらずに、そうした個人的な経験は客観的あるいは心理学的な視点ではどのように理解される問題課題であるか、そしてその問題課題の解決に対して、自身が本学での学びを活かしてどのように貢献したいかを表現するとよいでしょう。また適宜、現代の心理学研究に関する文献や研究論文等を引用することが望ましいでしょう。社会や人間のあり方に関心を持ち、新しい知識を取り入れて独創的な発想を育成することを期待します。

第2次選考の課題論文試験では、設定された課題に対する理解力や分析力、表現力、独創性なども評価の対象となります。これらは、課題を読みこなし、自分の見解を論理的に表現するための国語・英語、データを分析的に読み解く力としての数学などを基礎にしているものです。総合選抜型入試対策としても高校での基礎的な学習に力を入れるとよいでしょう。同様に課題論文試験では専門的な文章が課題論文となる場合があります。心理学や隣接領域の書籍・論文などを読み学習をしておくといよいでしょう。そして、その書籍などではどのような主張がなされているか、一方、自分であればどのような主張をするかを文章として表現する練習をするとよいでしょう。

【UNITE Program®データサイエンス型】 第1次選考のエントリーシートでは、個人的な経験をきっかけに関連する学問に関心をもった、という内容で終わらずに、そうした個人的な経験は客観的あるいは心理学的な視点ではどのように理解される問題課題であるか、そしてその問題課題の解決に対して、データサイエンスとしての心理学の在り方について論じるとともに、どのようにデータサイエンスを活かして貢献したいかを表現するとよいでしょう。加えて探究学習等で実際に得た人間の心理・行動に関するデータを取得し、それらを適切な統計法を用いて分析することも期待されます。適宜、現代の心理学研究に関する文献や研究論文等を参考・引用することが望ましいでしょう。社会や人間のあり方に関心を持ち、新しい知識を取り入れて独創的な発想を育成することを期待します。

第2次選考の口頭試問試験では、UNITE Programで習得した単元に関わり、数学、情報に関する知識を説明することが評価対象となります。そのため問題を解く力だけでなく、その原理や理論について説明する力も養うといよいでしょう。また同知識を使って特定のデータの理解や分析を行い、またその設定された問題文の文脈に応じた解釈や展開力も求められます。よって、広くデータサイエンスの素養も高めながら、データサイエンスとして心理学への理解を深め、データの読解力や解釈の方法について書籍・論文などを読み学習をしておくといよいでしょう。

以上